

1. 評価結果概要表

作成日 2009年6月8日

【評価実施概要】

事業所番号	08732000356		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	岩瀬ケアセンターそよ風		
所在地	茨城県桜川市岩瀬30-2 (電話) 0296-70-8971		

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市元石川町2523-3		
訪問調査日	平成21年3月22日	評価確定日	平成21年6月24日

【情報提供票より】(平成 21年3月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年12月2日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 12人, 非常勤 1人, 常勤換算 13.1 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50000円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	14 名	男性	4 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 80.9 歳	最低 67 歳	最高 90 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	飯田医院 県西総合病院 富士見台歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム付近には病院や消防署、小学校やショッピングセンターがあり、国道や水戸線も走っており、生活しやすい環境にある。また、周りには山があり季節の移り変わりも感じられる自然豊かな場所で、桜が咲く季節は近くの公園に桜を見に出かけたりしている。デイサービスが併設しており、行事なども一緒に行うなど交流する機会がある。ホーム内は清潔感があり、広々としたリビングでは毎日梅干体操が行われている。職員と歌を歌って過ごしたり、利用者同士で会話を楽しんだりする場面があり、とても穏やかな時間が流れていた。職員の利用者に対する対応は丁寧で、とても明るい。地域との関係が深まり、連携が図れるよう積極的に働きかけをしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価に対して、全職員で話し合い改善に向けて取り組んだ。同業者との交流を通じてケアの向上について、他のグループホームに働きかけを行った。ホームで行われた行事に参加し交流する機会を増やすよう工夫されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、管理者がまとめ、作成後に職員に閲覧してもらっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的な運営推進会議が実施されておらず、区長や自治会長等の地域の代表者の協力がなかなか得られていない。行政と協力し、充実した運営推進会議になるように今後取り組みに期待される
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に、こちらから声をかけ意見等を聞くようにしている。また家族会を行い、家族同士が交流する機会を設けている。家族会については、意見をなかなか言い出せない家族に配慮し、匿名アンケートの実施を検討している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小中学生の運動会に出かけたり、近隣の病院で行われる行事に参加したり、ボランティアの来所があったりと、地域と交流する機会がある。自治会に加入しており、日常的に地域との連携が図れるように働きかけを行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	そよ風憲章と共に、事業所独自の理念を掲げている。	○	地域密着型サービスを意識した理念を検討して頂きたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人職員に理念を伝え、理解してもらうようにしている。そよ風憲章を、毎日唱和している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の病院で行われる夏祭りに参加したり、小学校や中学校の運動会を見に行ったり、ボランティアの来所等、地域と交流する機会を設けている。自治会に加入し、そよ風便りなど回覧させてもらえるように働きかけしている。		地域との関係がさらに深まり、日常的に連携が図れるよう、区長や自治会長、地域の代表者、また行政への働きかけを継続し行っていただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価に対しては、カンファレンスで改善に向けての話し合いを行っている。評価の意義や目的について、職員に説明し、自己評価については、管理者がまとめ、作成後に職員に閲覧してもらっている。		自己評価の取り組みについて、それぞれの職員が振り返りの機会になるよう話し合いの場を設け、職員全体で自己評価に取り組んで頂きたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議が行えていない。会議には、市の担当者や利用者・利用者の家族が参加しているが、自治会長や区長の協力がなかなか得られていない。	○	運営推進会議に、区長や自治会長等地域の代表者が参加していただけるよう、市や地域包括支援センターと協力して頂きたい。また、地域と連携を図るための先駆けとして、回覧板の活用等についても話し合いを行っていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者は、協力的であり相談できる関係である。不明な事等は、その都度出向いて意見を頂いたり、情報交換をしている。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	そよ風便りと各担当者が利用者の暮らしぶりを手紙にして、家族に郵送している。体調変化等には、面会時や電話にて報告している。家族に報告した内容は、記録に残し、情報共有に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に、こちらから声をかけ意見等を聞くようにしている。家族会を行っており、家族同士が交流する機会を設けている。		家族会を活かして意見を聞く事や意見や不満等、言い出しにくい家族に配慮し、匿名のアンケートを実施することを提案する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。新人職員と利用者が馴染みになる間は、経験が長い職員と一緒にケアに当たっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には、希望者が参加している。研修に参加した後、情報共有の為に伝達研修を行っている。法人内の研修はブロック毎で月に1回研修を行っている。	○	全職員が、段階に応じた研修に参加できるよう、計画を立てていただきたい
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者に、夏祭り等の行事に来ていただけるように呼びかけをしている。徐々に、行事に参加していただけるようになり、交流する機会が増えてきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に、見学に来ていただいたり、本人に会いに向いたりしている。利用当初は、出来るだけ家族に来ていただき、安心感を持ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であるという考え方を職員は意識しており、行事事や慣わし事、料理等、利用者から学ぶ場面が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声のトーンや話しやすい姿勢に配慮したり、一人ひとりに向き合って話しかけ、希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中で話しをしながら意見や要望を本人から引き出せるよう工夫している。家族には面会時などに意見等を頂くようにしている。遠方の家族には、文章にて意見等を頂いている。職員はカンファレンス時に意見を出し合い、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に沿った記録等を参考にし、定期的にモニタリングシートを使用し見直しを行っている。状態の変化が生じた場合は、現状に合った介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスを併設しており、各種行事に参加し交流している。家族会など、家族との交流の場として、ダイルームを活用している。		ダイルームを、地域の研修事業(サポーター養成講座や認知症についての講座など)に、利用していただく事の検討を提案する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時に、希望のかかりつけ医を確認し、受診できるようにしている。病院受診の際は、利用者の状況を書面にし持って行って頂いている。協力医院は、週に1回の往診があるが、緊急時の対応が難しい。		緊急時の対応をしていただけるような、地域の医療機関との連携を深めて頂きたい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について、本人や家族と具体的な話し合いは行っておらず、法人としての方針も明確化されていない。利用契約時には、特別養護老人ホーム申請の話をつけ加えている。	○	終末期に対して法人の方針を定める事と、それに対してのマニュアル作りを整備する事をお願いしたい。また、終末期のあり方について、本人や家族と話し合ってもらいたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した言葉かけや対応が行われている。個人情報に関する同意書を交わしているが、写真掲示に関しては文章で同意が得られていない。		写真掲示に関しても、文章で同意を得るようにして頂きたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、その日の希望も考慮しながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事の準備や片付けを行っている。職員も同じテーブルを囲み、楽しい雰囲気ですり出れるようにしている。季節料理や七草粥など、季節の行事に合わせた食事の提供も行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じた入浴の支援を行っている。柚子湯や菖蒲湯を行い、季節を感じられたりと、楽しみながら入浴できるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や出来ることを活かした役割の支援を行っており、利用者同士で話し合い協力し合いながら行っている。季節に合った行事をおこなったり、梅干体操を行ったりなど、色々な楽しみごとがある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの神社や公園等へ、ドライブしたり、散歩に出かけたりしている。利用者の希望に沿って買い物に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を出ると交通量の多い道路に面しているため、安全を最優先して玄関の施錠を行っており、契約時に家族に説明し、了承を得ている。運営推進会議でも危険性があるため施錠の要望があった。職員は、鍵をかける事への弊害は理解している。		玄関に鍵をかけていることで、利用者に混乱を与えていないか、また、鍵がかかっている安心感から、職員の目配りする範囲が狭くなっていないか等、鍵をかける事の弊害を常に意識し検討して頂きたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防訓練を実施しており夜間訓練も行われているが地震の訓練は行っていない。消防署の協力を得て、災害時のマニュアルを作成したり、災害備蓄品の準備も行っている。	○	今後は、地震や防災の訓練も行っていく事と、災害時に地域の方から協力を得られるように働きかけし、協力体制を整えることを願いたい。また、夜間時の避難のあり方等、再度検討して頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態や習慣に合わせた、食事の提供を行っている。食事量や水分量の記録や、体重測定を行い体調の把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには、季節の花が飾られていたり、観葉植物が置いてある。居室から、リビングまでの距離があるので、休めるように長椅子が設置されている。畳の部屋もあり、その部屋で横になったり出来るようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や好みの物を持ち込んで頂くように声をかけ、家族に協力を得ながら、居心地よく過ごせる居室作りに努めている。		